

基礎看護学実習Ⅱ

[1単位45時間]

目的

療養生活を送る対象との言語的・非言語的コミュニケーションの実際を理解できる。

目標

- 1 環境整備や日常生活援助場面等をとおして、療養生活を送る対象や家族の思いに関心を寄せることができる。
- 2 対象の思いや考えに影響を与える要因を考えることができる。
- 3 対象が話しやすいコミュニケーション技法を用いることができる。
- 4 コミュニケーションが対象に与える影響を振り返ることができる。
- 5 看護学生として望ましい態度を取ることができる(情報管理、言葉遣い、身だしなみ・主体的な学習姿勢)。

実習時期・期間及び実習時間

- 1 実習時期:1年次
- 2 実習期間:令和 8年 10月 26 日(月)から10 月30 日(金)
- 3 実習時間:9時間(8時30分～12時 15 分、13時 15 分～16時 15 分)×5日間

※15:30～16:15 は記録の整理

1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
8:30～15:30【病棟】 ・病棟オリエンテーション ・受け持ち患者決定・説明 ・シャドーイング実習	8:30～15:30【病棟】 ・対象を理解するために意図的なコミュニケーション ・看護援助の見学および一部実施 ミニカンファレンス	8:30～15:30【病棟】 ・対象を理解するために意図的なコミュニケーション ・看護援助の見学および一部実施	8:30～15:30【病棟】 ・対象を理解するために意図的なコミュニケーション ・看護援助の見学および一部実施	8:30～15:30【病棟】 ・対象を理解するために意図的なコミュニケーション ・看護援助の見学および一部実施 終了カンファレンス
15:30～16:15【控室】 記録の整理	15:30～16:15【控室】 記録の整理	15:30～16:15【控室】 15:30～15:45 学びの共有(意見交換) 15:45～16:15 記録の整理	15:30～16:15【控室】 15:30～15:45 学びの共有(意見交換) 15:45～16:15 記録の整理	15:30～16:15【控室】 15:30～16:15 記録の整理 ※16:45最終提出

実習場所

- 1 病院

内容

1 事前学習

- 1) 看護学概論・心理学・人間関係論・ホスピタリティとコミュニケーションについて復習する。
- 2) 看護における基本技術 I (環境整備・感染予防・活動休息(ポジショニング及び体位変換・移乗・移送)、寝衣交換の技術について、目的・方法・留意点について授業で学習した内容を復習し、実習で活用できるようにまとめておく。

2 実習方法

- 1) 実習初日に施設でのオリエンテーションを受ける。

(1) オリエンテーションの内容

病棟の特徴、療養している患者の特徴、行われている治療や看護援助の内容、病棟の構造と避難経路、物品配置や使い方(挨拶の場所、手洗いやごみの捨て方も含む)、カルテの見方、実習上の留意点等

- 2) 学生 1 名で患者 1 名を受け持てるよう、実習初日にコミュニケーションが可能な受け持ち患者を選定してもらい、臨地実習指導者から療養の経過や日常生活状況、実施されている看護援助について説明を受ける。その後、看護師と共にシャドーイングを行い、患者とのコミュニケーションや援助の実際を見学する。なお、受け持ち患者の状況によって、1日関わるのが難しい場合は、適宜担当看護師のシャドーイングを行う。

【受け持ち患者の条件】

- ・コミュニケーションが可能な患者
- ・慢性期・回復期等で状態が安定している患者

- 3) 療養生活を送る場として、病棟・病室の環境について自ら観察を行う。
- 4) 実習 2 日目以降は、看護師と共に日常生活の見学および一部実施(既習学習の範囲)をしながら、受け持ち患者にコミュニケーション技法を用いて、コミュニケーションを図る。
※受け持ち患者への援助は原則見学とする。ただし、環境整備や活動休息(ポジショニング及び体位変換・移乗・移送)、寝衣交換の技術については、臨地実習指導者及び教員の了解が得られれば、一部実施することができる。
- 5) 臨時実習 2 日目にミニカンファレンス、臨地実習 5 日目に終了カンファレンスを実施する。

3 カンファレンス

カンファレンスは下記に示す方法で、学生が主体的にすすめる。

1) ミニカンファレンス

(1) 目的

対象を理解し、コミュニケーションにいかす。

(2) 方法

- ① 臨地実習2日目に、30 分以内で行う。

- ② 事前準備

対象とのかかわりを通して、気づいたことや学んだこと、疑問点をメモ帳にまとめ、話し合いができるようにする。

- ③ 実施

ア ②に沿って発表し、グループ内で意見交換をする。

意見交換の後、臨地実習指導者および教員より助言、補足説明を受ける。

イ 意見交換や助言をもとに翌日以降、コミュニケーションを行う。

2) 終了カンファレンス

(1) 目的

臨地実習での体験からの学びを言語化し、共有する。

テーマ:「実習を通しての学び」

視点: ①対象に関心を寄せるとはどういうことか。

②対象が話しやすいコミュニケーション技法とは。

③指導者・教員・学生間など臨地実習に関わる他者とのコミュニケーションで大切なこと。

④コミュニケーションにおける自己の傾向と課題。

(2) 方法

① 臨地実習5日目に1時間以内で行う。

② 事前準備

テーマに沿った内容を記録4にまとめ、発表できるよう準備する。

③ 実施

ア ②をもとに、実習体験からの学びを発表する。

イ 発表内容をもとに、臨地実習指導者・教員も交えて意見交換を行う。実習の学びとして活用する。

実習記録

記録1

記録2

記録3

記録4

記録提出

「IV 実習の概要」を参照し、実習最終日に提出する。

※日にちの早いものから順番に綴じる

実習評価

「V 実習評価」を参照し、評価表に基づき行う。

基礎看護学実習Ⅱスケジュール(案)

	学生の行動	記録・提出物 (朝提出するもの)	臨地実習指導者の行動	教員の行動
実 習 前	・学習課題に取り組む。	事前学習	・患者を選定し、協力を依頼する。 ・情報用紙を作成する。 ・スタッフへ実習の協力を依頼する。	・実習オリエンテーションを行う。 ・実習に臨む姿勢や準備状況を確認する。
臨 地 1	1. 病棟オリエンテーションを受ける。 2. 受け持ち患者の説明を受ける。 3. 受け持ち患者に挨拶する。 4. 看護活動を見学する(看護師のシャドウイング)。 5. 受け持ち患者の療養環境の観察をする。 6. 受け持ち患者とのコミュニケーションに必要な情報を整理する。 7. 指定された場所で記録をまとめる。 8. 健康状態を報告する。実習終了時、出欠席表に確認印をもらう。	記録2(本日の目標・行動計画)	1. 病棟オリエンテーションを行う。 ※詳細は「2実習方法」参照 2. 受け持ち患者に学生を紹介する。受け持ち同意書がある場合は内容を確認する。 3. 受け持ち患者の療養経過と看護について説明する。 4. 援助場面を見せ、受け持ち患者の状態をふまえた援助の工夫やコミュニケーションの意図を説明する。 5. 健康状態の報告を受ける。実習終了時、出欠席表に押印する。	1. 病棟のオリエンテーション内容の理解度を確認する。 2. 各学生の受け持ち患者を臨地実習指導者と相談して決定する。 3. 看護活動が見学できるように調整する。 4. 見学した看護活動の振り返りをサポートする。 5. 受け持ち患者と学生間の関係を確認し、難しいようであれば、モデリングを示す。 6. 朝健康状態を確認する。実習終了時、出欠席表に押印する。
臨 地 2～ 4	5～8 同様 9. 看護師に行動計画を発表し、調整する。 10. 指導の下、受け持ち患者の環境整備を行う。 11. 受け持ち患者との関わり方や看護援助について見学する。 12. 指導の下、受け持ち患者とコミュニケーションや看護援助を一部実施する。 13. 許可が得られた受け持ち患者以外の患者の援助を見学、コミュニケーションを図る。 14. 臨地2日目ミニカンファレンスを行う。	記録1 記録2(本日の目標・行動計画、前日の実施等) ※記録1は日々追加し、提出する。 ※記録は適宜修正し、提出する。	3～5 同様 6. 学生の行動計画を受け、補足説明や時間調整をする。 7. 学生の対象理解の進捗状況を確認し、助言する。 8. 受け持ち患者の状態によって1日関わることが難しい場合は、適宜、担当看護師のシャドウイングができるように調整する。 9. 臨地2日目ミニカンファレンスの目的に沿って、助言する。	3～6 同様 7. 対象理解の進捗状況を確認し、助言する。実施したコミュニケーションの振り返りを支援する。 8. 思考過程が整理できるよう支援する。 9. 臨地2日目ミニカンファレンスの目的に沿って、助言する。
臨 地 5	5～14 同様 15. 終了カンファレンスを行う。 16. 記録を整えて提出する。(最終提出)	記録1 記録2(本日の目標・行動計画、前日の実施等) 記録4(テーマ)	3～8 同様 10. 終了カンファレンスのテーマに沿って、助言する。	3～8 同様 10. 終了カンファレンスのテーマに沿って、助言する。

基礎看護学実習Ⅱ 評価表

茨城県立看護大 看護学科

実習期間:令和 年 月 日～ 月 日				学籍番号:氏名	教員サイン
-----------------------------------	--	--	--	---------	-------

目標1 環境整備や日常生活援助場面等をおとして、療養生活を送る対象や家族の思いに関心を寄せることができる。

評価規準	評価対象	評価基準				学生	指導者 教員
		5点	4点	3点	2点		
1 対象やその家族に関心を寄せることができる。 (対象理解の一部、対象の主観的な身体・心理・社会面の変化から、その人をどう考えるか)	実習記録 言動	入院や病気や治療による変化(生活・役割・体調など)を対象がどのように感じているのか、対象から話を聴いたり、職員からの説明などから 自立的に 情報を得ている。	入院や病気や治療による変化(生活・役割・体調など)を対象がどのように感じているのか、対象から話を聴いたり、職員からの説明などから情報を得ている。	入院や病気や治療による変化(生活・役割・体調など)を対象がどのように感じているのか、助言や振り返りによって、情報を得ているが不足がある。	助言や振り返りがあっても、情報を得ていない。または、情報を得る行動をしていない。		
2	実習記録 言動	入院や病気や治療による変化(生活・役割・体調など)を対象がどのように感じているのか、考えたことを 具体的に 説明している。	入院や病気や治療による変化(生活・役割・体調など)を対象がどのように感じているのか、考えたことを説明している。	入院や病気や治療による変化(生活・役割・体調など)を対象がどのように感じているのか、助言や振り返りによって考えたことを説明しているが、不足がある。	助言や振り返りによって、考えたことを説明しているが、独りよがりである。または、説明できない。		
3 看護師が療養環境を整える意義を理解できる。	実習記録 言動	既習学習や実習体験を通して、対象の療養生活の状況に配慮した療養環境を整える意義について、 根拠をもとに 捉えている。	実習体験を通して、対象の療養生活の状況に配慮した療養環境を整える意義を捉えているが、根拠が不足している。	対象の療養環境を整える意義は捉えているが、対象の療養生活との関連は不足している。	療養環境を整える意義を捉えようとしているが、独りよがりである。		

目標2 対象の思いや考えに影響を与える要因を考えることができる。

評価規準	評価対象	評価基準			学生	指導者 教員
		10点		4点		
4 対象の反応に影響する要因を多面的に捉えることができる。	実習記録 言動	対象の言動や行動、生活に影響を与える要因を捉え、根拠をもとに関連づけている。		対象の言動や行動、生活に影響を与える要因を捉えようとしているが、根拠が乏しく考えが飛躍している。		

目標3 対象が話しやすいコミュニケーション技法を用いることができる。

評価規準	評価対象	評価基準				学生	指導者 教員
		5点	4点	3点	2点		
5 対象の反応に応じた効果的なコミュニケーション技法を用いることができる。	実習記録 言動	丁寧な言葉遣いや挨拶や関心を示す行動・言動がとれる。常に対象の話をうなづきや自然なアイコンタクトをしながら聴いている。対象の話を遮らず、 話の中心を相手に確認しながら 聴いている。	丁寧な言葉遣いや挨拶や関心を示す行動・言動がとれる。対象の話をうなづきや自然なアイコンタクトをしながら聴いている。対象の話を遮らず聴いている。	丁寧な言葉遣いや挨拶はできる。対象の話を聴こうとする姿勢はみられるが、傾聴の技法が形式的であったり、一方的な関わりがみられる。	対象への関心を示す言動や聴く姿勢が十分ではなく、関わりが形式的・一方的である。または、消極的で対象とのコミュニケーションに至らない。		
6 対象が話しやすい環境を考え、配慮することができる。	実習記録 言動	対象の表情や反応に応じて、声のトーン・間・姿勢・距離感などを 適切に 調整し、対象が 安心して話せるよう 配慮して関わっている。	対象の表情や反応に応じて、声のトーン・間・姿勢などを調整し、対象が話しやすいよう配慮して関わっている。	対象が話しやすいよう配慮して関わろうとしているが、調整が不十分である。	対象が話しやすいような配慮や調整がほとんどみられず、一方的な関わりとなっている。		
7 意図的なコミュニケーションの実施が理解できる。	実習記録 言動	対象の感情表出やプライバシー(個人情報を含む)を考え、環境的配慮(場所・距離・角度)を十分に計画し、実施している。	対象の感情表出やプライバシー(個人情報を含む)を考え、環境的配慮(場所・距離・角度)を計画し、 一部実施 している。	対象の感情表出やプライバシー(個人情報を含む)、環境的配慮(場所・距離・角度)を考えているが、実施には至らない。または、事前に考えることなく実施している。	対象の感情表出やプライバシー(個人情報を含む)、環境的配慮(場所・距離・角度)を考えない、かつ、実施には至らない。		
8		質問内容や対象にあった尋ね方を事前に考えて計画し、実施している。	質問内容や対象にあった尋ね方を事前に考えて計画し、 一部実施 している。	質問内容や対象にあった尋ね方を事前に考えているが、実施には至らない。または、事前に考えることなく会話をしている。	質問内容や対象にあった尋ね方を事前に考えていない、かつ、実施には至らない。		

目標4 コミュニケーションが対象に与える影響を振り返ることができる。

評価規準	評価対象	評価基準				学生	指導者 教員
		10点	8点	6点	4点		
9 コミュニケーションが対象へ及ぼす影響を理解できる。	実習記録 言動	相手の言語的・非言語的メッセージを観察し、それらを関連付けて対象の考えや感情を推察し、 根拠をもって 表現している。	相手の言語的・非言語的メッセージを観察し、対象の考えや感情を推察して表現している。	相手の言語的または非言語的メッセージを観察し、対象の考えや感情を推察して表現している。	相手の言語的または非言語的メッセージを観察しているが、対象の考えや感情の推察が表面的または断片的である。		
10		対象とのかかわりで生じた自己の考えや感情を 具体的に 表現している。	対象とのかかわりで生じた自己の考えや感情を表現している。	対象とのかかわりで生じた自己の考えや感情を表現しているが、不明瞭である。	対象とのかかわりで生じた自己の考えや感情を一部表現しているが、断片的である。		
11 実習体験を振り返り、コミュニケーションにおける自己の課題が明確にできる。	実習記録 カンファレンス 言動	実習中の印象に残った出来事やありのままに捉え、何を考え何を感じたのか、その経験から何を学んだのか、考えたことを論理的に述べている。 かつ、自己の課題を 経験とのつながりを持って具体的に 述べている。	実習中の印象に残った出来事や考え感じたこと、その経験からの学びについて、助言を受けながら、考えたことを述べている。かつ、自己の課題を述べている。	実習中の印象に残った出来事や考え感じたこと、その経験からの学び、自己の課題について、助言を受けても不足はあるが、考えたことを述べている。	学びが不明瞭である、または独りよがりである。または、テーマに沿わない内容を記載している。		

目標5 看護学生として望ましい態度をとることができる(情報管理、言葉遣い、身だしなみ、主体的な学習姿勢)。

評価規準	評価対象	評価基準				学生	指導者 教員
		5点	4点	3点	2点		
12 専門職としての基本的な態度	実習記録 その他記録物 (事前学習、メモ帳等) 言動	看護学生として誠実に対応している。 □身体調管理(適切な受診も含む) □身だしなみ □相手を尊重した態度	何れかに課題があったが、改善している。	何れかに課題が残るが、改善の必要性には気付いている。	何れかに課題があり、自分本位である。		
13 保健・医療・福祉チームの一員として責任を果たす基本的行動	実習記録 その他記録物 (事前学習、メモ帳等) 言動	責任を果たす基本的行動がとれている。 □事故防止 □感染防止 □時間管理 □提出期限	何れかに課題があったが、改善している。	何れかに課題があり、その課題を繰り返した。または何れかの課題により、相手に影響を与える可能性があった。	何れかの課題により、相手に影響を及ぼしている。		
14 情報管理	実習記録 その他記録物 (事前学習、メモ帳等) 言動	情報管理の必要性を理解し、実習要領「個人情報及び実習記録等に関する注意事項」に沿った管理・行動をしている。 □個人情報の取り扱い □記録物の取り扱い □施設のルールを守った行動	何れかに課題があったが、改善している。	何れかに課題があり、その課題を繰り返している。または何れかの課題により、相手に影響を与える可能性がある。	何れかの課題により、相手に影響を及ぼしている。		
15 報告・連絡・相談	実習記録 その他記録物 (事前学習、メモ帳等) 言動	報告・連絡・相談を適切に行っている。 □時期(タイミング) □内容 □方法(誰に、どのように)	何れかに課題があったが、改善している。	何れかに課題が残るが、改善の必要性には気付いている。	何れかに課題があり、自分本位である。		
16 主体的な学習姿勢	実習記録 事前学習 言動	教科書や参考書、授業資料を用いて 不足なく 事前学習をして実習に臨んでいる。実習中にわからなかった事柄について 積極的に 質問し、教科書や参考書等を用いて自ら学習している。	教科書や参考書、授業資料を用いて事前学習に取り組んでいるが、やや不足がある。また、実習中にわからなかった事柄について、促されれば質問や学習をしている。	事前学習に取り組んでいるが、不足があり、かつ、実習中にわからなかった事柄について、促されれば質問や学習をしている。	事前学習に多く不足があり、学習課題に取り組んでいない。かつ、実習中に課せられた課題に対して学習をしていない。		
						合計	合計
						評定	

基礎看護学実習Ⅱ 記録1
(患者基本情報)

茨城県立看護大学 看護学科
学籍番号:

患者記号	氏	性別	男・女	年代	代 前半・後半	職業
主病名				看護の方向性および看護に必要な観察点		
治療方針						
安静度(日常生活行動範囲)※該当するところに○をつける 絶対安静 ベッド上 病室内 病棟内 病院内						
家族構成※年代(前/後半)、性別、同一世帯を線で囲む キーパーソンおよびサポート状況 (家族のサポートや退院後の療養の場など)				本人・家族の病気や治療、退院後の生活に対する思い		
入院前の生活状況・習慣 動く・休む 食べる 排泄する 清潔にする 話す・聞く(コミュニケーション) 趣味・信仰・健康上心がけていることなど				現在の生活状況 身体的特徴・症状・留意する点(点滴、酸素マスク、ガーゼ等の有無や聴覚・視覚・言語等障害の有無) 動く・休む 食べる 排泄する 清潔にする 話す・聞く(コミュニケーション) 趣味・信仰・健康上心がけていることなど		

基礎看護学実習Ⅱ 記録2
 実習（ ）日目

茨城県立看護大学校 看護学科
 学籍番号

本日の実習目標

時間	行動計画	実施したこと (コミュニケーションの内容と対象の反応、 見学した援助内容と対象の反応、観察したこと)	実施した内容から考えたこと
本日の実習の学び			
指導者サイン		教員サイン	

本日の実習で最も印象に残った対象の言動と、その時の自分の感情や気づき	
実習1日目	
実習2日目	
実習3日目	
実習4日目	
実習5日目	

記録4(終了カンファレンス)

茨城県立看護大学校 看護学科

学籍番号: _____

<テーマ> 「実習を通して学んだこと」

<カンファレンス後の学び>

「実習を通しての学び」について、カンファレンスを通して学んだことと自己の課題